

## 検討の目的とプロセス・課題と対応方策

### 検討の目的（地域別実行計画の目的）

公共施設の将来を考えるにあたり、サービス機能を維持しつつ、将来に過度な負担とならないよう施設規模の削減を進める必要があります。

特に、市民が日常的に利用する身近な施設については、地域ごとの現状や課題を踏まえながら、将来どうあるべきかを計画していくことが重要であることから、中学校区を基本単位として「地域別実行計画」を作成します。

### 検討の成果（地域別実行計画の項目）

#### 【地域別実行計画としてとりまとめる項目】

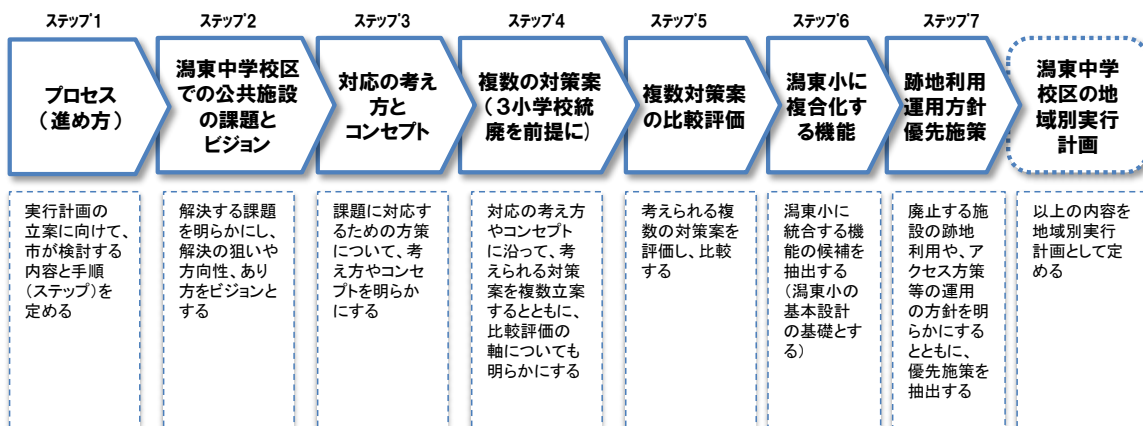
- ・ 潟東中学校区の公共施設に関わる課題
- ・ 目標とするビジョン（課題解決の狙い）
- ・ 課題対応の考え方や対策のコンセプト
- ・ 具体的な対策案
- ・ 既存施設の利用の効率化や廃止施設の利活用のあり方
- ・ 優先すべき施策
- ・ 今後の進め方

## 地域別実行計画の検討プロセス

地域別実行計画を策定するまでに、初めにプロセスを定め、課題やビジョン（狙い）を確認し、複数の対策案を比較評価して対策案を選定します。また、地域別実行計画には、具体的な方策として、新設する潟東小に統合すべき機能、跡地利用、施設運用方針、優先施策などを取り込みます。

### 【地域別実行計画の検討内容や手順】（案）

- 初めにプロセスを定める
- 課題とビジョン（狙い）を先ず確認する
- 課題への対応の考え方やコンセプトを確認する
- 機能の統廃合など、根本的な対策について複数案を立案する
- 複数案を比較評価し、最良案を選定する
- 新設する小学校に複合化する機能を抽出する
- 跡地利用や施設運用のあり方を確認する
- 優先施策を抽出する
- 地域別実行計画としてとりまとめる



## 市民の参加と意見反映の仕組み

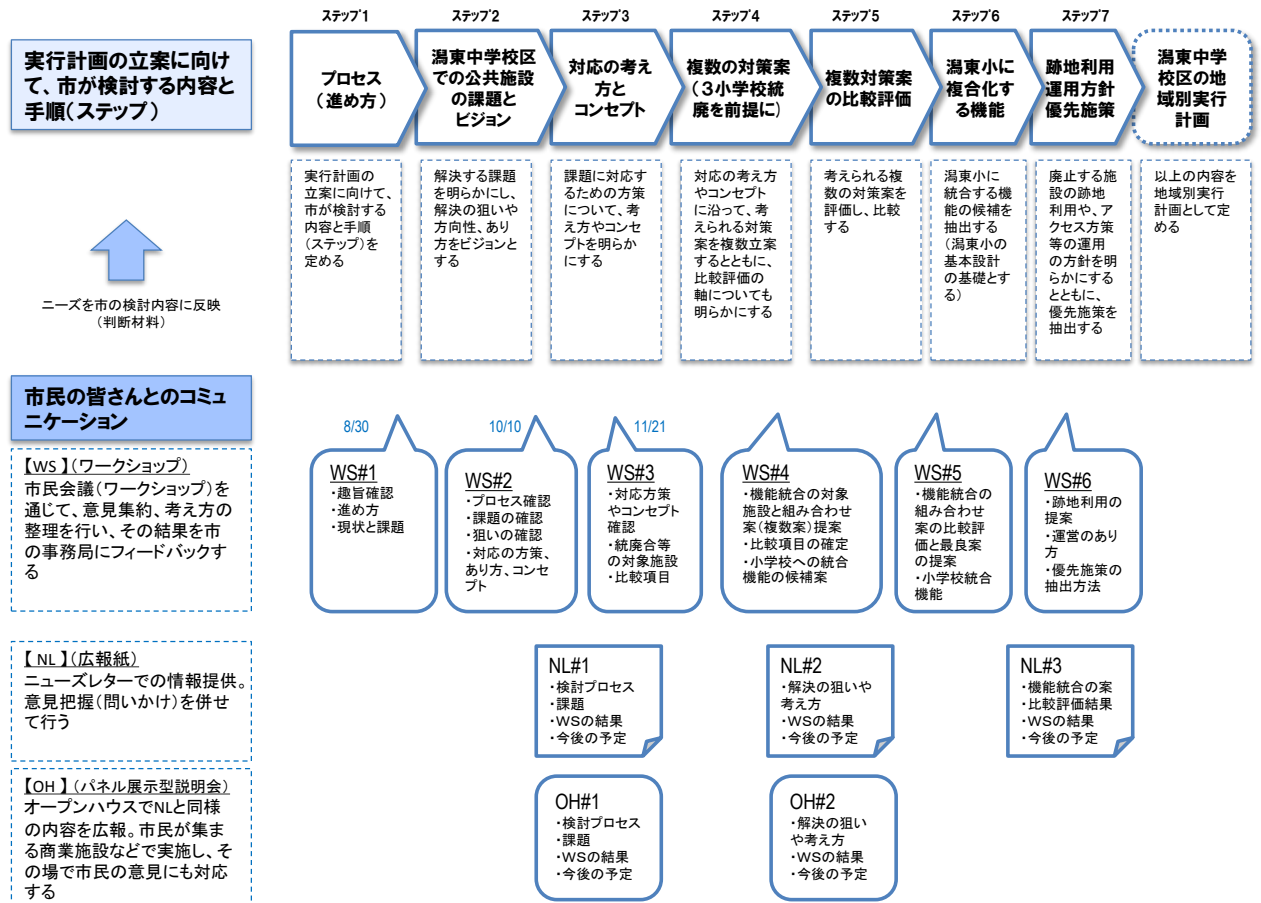


地域別実行計画の検討では、ニュースレター（広報紙）やオープンハウス（パネル展示型説明会）、ワークショップ、市民フォーラムの場で、情報を提供し、皆さんとのコミュニケーションを積極的に実施します。

情報提供や意見把握は、地域別実行計画の検討手順に合わせ、順序だてて実施します。このことで、検討内容ごとに意見を反映することができ、協働して計画を検討することができます。

作業工程や具体的な時期を踏まえた検討プロセスの全体像は下図のようになり、全体で7つのステップで段階的に進めます。

### 【検討プロセスの全体像】



## 解決すべき課題

潟東地区の公共施設について、次の課題の解決が必要です。

### 【解決すべき課題】

- 将来世代に過度な財政負担を強いることなく、また、必要な公共サービスを維持するために、市有財産をどう管理・利活用していくべきか？
- 施設の状況やサービスに見合った適切な料金設定や、利用手続きなど運用面の改善、アクセスの改善など、施設が無駄なく効率的に利用されるために何をすべきか？
- 廃校となる小学校など、施設の役割が変化した場合は、その施設を具体的にどう利活用していけばよいか？

## 課題解決の狙い

課題を解決することで、次のような状況を実現することを狙いとして計画を検討します。

- 過度な財政負担が将来世代に残らない
- 地域に必要な機能を維持する（高齢者、子育て、防災等）
- 地域のまとまりや中心性を保つ
- 地域が活性化する（魅力が増す、雇用を生む、人口が増える等）
- 地域間や世代間で、利用や負担の公平性やバランスがとれる
- 施設が有効に利用され、無駄がなく、安全で、地域のためになる
- アクセスしやすく、気軽に使える

新規の内容  
です

## 課題解決の考え方や方策

課題を解決するために、どのような考え方に沿って、どのような方策を実施すべきでしょうか？ 具体の施設に照らして考えましょう。

検討の参考とするため、これまでの議論の中から、方法や考え方を抽出しました。

- 施設複合化で多世代交流や高齢者の生きがい創出などをはかる
- どんな機能が必要か、から考えて、似たような施設がある現状を見直していく
- 利用者に合った交通アクセス（行きやすさ）を考慮する
- 広報やイベントなどの工夫で施設利用率を高め、地域の活性化や利用料収入増につなげる
- 不要な土地や建物は整理し、売却・貸付する
- 潟東らしさに基づいた施設の活用をする（農業など）
- 
-